

8020健康長寿社会 実現に向けた取組を！

問 8020（ハチマル・ニイマル）運動とは、

「80歳になっても、自分の歯を20本以上保とう」という運動であるが、本市の8020運動の現状と課題、目標達成に向けた予防歯科をどのように推進しているのか。

答 歯の健康については、西条市健康増進計画「元氣都市西条2015」の中

で取り組んでいる。具体的には、40歳から70歳までの5歳ごとの市民を対象に成人歯科検診を6月から1月までの8か月間、市内歯科医療機関において自己負担なしで実施するとともに、年に一度の歯科検診の必要性などについて、市民への啓発活動を実施している。

また、歯科検診の結果から、平成25年度に60歳以上で自分の歯を24本以上有する人は62・7パーセントと増加傾向にあるが、受診率は38・1パーセントと低く、更なる意識

啓発が必要であると考えている。

予防歯科については、小・中学校では、保健体育の教科指導や保健指導が行われ、各校において、実態に応じた虫歯予防の取組が実践されている。

また、成人歯科検診については、平成26年度より、40歳と45歳で検診の申し込みをしていないかたに対し、受診勧奨はもとより、かかりつけ歯科医師を持つことを勧めるパンフレットなどを送付することとしている。

更に、小・中学生歯科医療費助成を機に、医療機関や小・中学校などの関係機関を通じて、学童期からの8020運動をあらゆる機会を捉えて周知し、市民が生涯にわたって歯と体の健康に関心を持つよう取り組んでいきたい。



リベラル西条

議案質疑

平成26年度 一般会計補正予算(第3回)

変更の経過は？

東予港港湾計画

問

6月補正で、東予港複合一貫輸送ターミナルの整備に係る予算2千408万9千円を計上しているが、どのような協議経過を経て、東予港港湾計画が変更されたのか。

答

平成17年に愛媛県が策定した港湾計画では、フェリー埠頭は壬生川地区に位置付けられていたが、老朽化したフェリー船舶の更新や大規模地震対策、貨物需要の増大への対応が求められる中、既存の計画では防波堤も含めて事業化されるまでに一定の期間を要することから、早期に対応が可能となるよう計画

の見直しを検討してきた。その結果、船舶の航行安全上支障がないこと、また、整備コストなどを比較検討した上で、国、県の審議を経て、平成26年4月に壬生川地区から中央地区に変更となったものである。

一般質問

設置するべきではないか？

小・中学校の空調設備

問

小・中学校の普通教室における空調（冷房）設備の設置率は全国平均で32・8パーセント、愛媛県では4・6パーセントとなっているが、市内小・中学校の現状や設置に対する市の基本的な方針を問う。

答

市内小・中学校における冷房設備の設置率は、普通教室1・9パーセント、特別教室5・6パーセントの合計4・3パーセントとなっている。現状の対策として、全ての小・中学校の普通教室に扇風機を配置するとともに、

ミストシャワーや緑のカーテンなどを設置している。

冷房設備の必要性については、学習効果や意欲の低下が懸念され、児童・生徒が熱中症にかかる危険性が高くなることから、じゅうぶん認識している。今後、財政的な面も含めて検討し、教育環境の充実に努めたい。

どう取り組む？

市の地下水保全

問

水循環基本法が平成26年7月1日に施行されるが、市は、地下水流域を総合的に管理すべき立場として、この法律を基に、今後、どのように地下水の保全活動を行っていくのか。

また、現在、暫定施行されている西条市地下水の保全に関する条例について、改正する考えはあるのか。



うちぬき